

11月1日付け 新理事長に内田正好氏 就任

新任の挨拶

NPO法人一関文化会議所 理事長 内田正好

地域の歴史や文化を再認識、そして次世代へ！

この度、一関文化会議所の理事長に就任致しました内田正好と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、当一関文化会議所は、地域の文化育成と支援、研修や顕彰等を目指して活動しております。幸い会員の皆様方からの厚い御理解と御協力を賜り、お陰様で順調に進めることができます。本年度の主な活動状況は次の通りです。

1 事業委員会

- ふるさと学習院の開催（5回シリーズ）
- ふるさと学習院講座集録集発刊（第四編）

2 子ども委員会

- 一関ふるさと子ども探検隊の開催
(川崎小)
- 東大生出前授業の開催（山目中と桜町中）
- 「一関地方ゆかりの人物事典」の発刊

3 獎励委員会

- 各文化団体などとの事業共催
- 顕彰事業として「一関文化賞」の贈呈

4 総務委員会

- 視察研修事業（男鹿半島と秋田美術館）
- 会報の編集と発行

5 一関文化センター・一関勤労青少年ホーム・ 一関市女性センターの指定管理受託事業

以上、5分野
が基本の事業と
なっております。

いずれも会員
の方々を初め、
市民の皆様方の
積極的な御参加
と温かい御協力
を戴いて、それ
ぞれ濃密な内容

に深められ、充実した学習や研修となり、
楽しい事業として取り組むことができている
のではないでしょか。

今後も会員の方々や市民の皆様方のお声には十分応えられるようにスタッフ一同しっかりと耳を傾け、可能な限り御要望を反映させて、御満足戴けるように努力して参ります。

私たちはふるさとを愛し、地域の歴史や
文化の素晴らしさを再認識して先人に学び、
その意義を若い人たちや子どもたちに伝えよう
ではありませんか。そして、誰もが人間ら
しく、心豊かでかつ幸せに生きて行けるよう
に支え合って毎日を送りたいものです。



第24回(平成26年度)一関文化賞・文化奨励賞 小野寺苓氏と一関藤沢市民劇場実行委員会・ 本寺地区地域づくり推進協議会に

第24回(平成26年度)一関文化賞・文化奨励賞の表彰式は、11月11日、ホテルサンルート一関を会場に執り行われ、文化・芸術の振興、まちづくり・地域づくりに貢献された、個人と2団体を表彰し、その功績をたたえました。

一関文化賞芸術文化部門でエッセイ集や地域の歴史小説等を執筆されている小野寺苓氏、一関文化奨励賞芸術文化部門で演劇の舞台芸術を通じて文化振興に取り組んでいる一関藤沢市民劇場実行委員会、生活文化部門で骨寺村の歴史・農村景観を守る活動等を通じて地域づくりに取り組んでいる本寺地区地域づくり推進協議会を表彰しました。

式では、内田正好一関文化会議所理事長の式辞のあと、受賞者に表彰状とトロフィーが手渡され、来賓から祝辞を頂き、受賞をたたえました。また、受賞者の方々からは今後の活動への決意と感謝の言葉を頂きました。



左から、小野寺苓氏、一関藤沢市民劇場実行委員会皆川委員長、
本寺地区地域づくり推進協議会佐藤会長

【受賞者の紹介】

奨励委員会委員長 阿 部

睦

一関文化賞「芸術文化部門」

小野寺 苓氏 (一関)

小野寺苓氏は、岩手大学学芸学部を卒業され、これまで詩集、エッセイ集、歴史小説などの多数の作品を発表。詩人の筆名は「北川れい」、小説やエッセイの時は「小野寺苓」として活躍しています。

日本現代詩人会など文壇の各会にも所属し、日本現代詩歌文学館運営協会役員や北上市の井上靖文学を読む会代表を務めるなど広範に活動しているほか、一関東中学校校歌も作詞しています。

これまでの発表作品も多数あり、昭和38年に詩集「マンの木」を発刊、のち「蓮台野」、「花の郵便」、「托鉢の朝」を発表。エッセイ集では、「北窓の風景」、「女の名前」がテレビ番組で取り上げられるなど高い評価を得ています。

小説には、「玉薔」、「みちのく腑分け始末」、「茶杓消えた伊達家老」などがあり、どの作品も地域の歴史を掘り起こし、詳細な調査研究で紐解き、そして綿密

な資料に基づいて書かれており、埋もれてしまいそうな地方の出来事を歴史小説とした著書は歴史書としても評価されるなど、文学、文化的貢献度は高く、その功績は多大なものがあります。

一関文化奨励賞「芸術文化部門」

一関藤沢市民劇場実行委員会 (皆川洋一委員長) (藤沢)

一関藤沢市民劇場実行委員会は、演劇上演を通じ地域を見つめ直し、独自の文化を創造、発信する取り組みとして、平成11年10月に藤沢町民劇場として旗揚げし、その後一関市との合併により一関藤沢市民劇場となりました。

市民劇場は、地域住民がキャスト・スタッフとなり、原作・脚本・舞台づくりまで全て手づくりで、地域出身の人物や地域の歴史を題材にした創作劇として、故郷愛あふれる劇を毎年上演しています。

平成12年2月に「森に消えた十字架」を初公演。総勢70名のキャスト・スタッフで、江戸時代に藤沢町大籠で多くの殉教者を出した厳しい切支丹弾圧の史実をもとに、東北の小さな村におこった歴史を舞台芸術として創作し、公演しました。以来、地域の物語を

題材に地元での公演のほか、東京、横浜、仙台、盛岡でも公演し地方の文化を発信しています。

地域の歴史を視点とした演劇上演は、多くの方々に感動を与えるとともに、地域住民、故郷を離れて暮らす方々の古里を想う意識の醸成に貢献し、その功績は大きいものがあります。

一関文化奨励賞「生活文化部門」

本寺地区地域づくり推進協議会（佐藤勲会長）
(一関)

本寺地区は、一関市の西部、厳美町の山間地に位置し、かつては「骨寺村」と呼ばれた莊園で、中尊寺の経蔵別当の所領でした。中世・鎌倉時代に描かれた陸奥国骨寺村莊園絵図に実写的に描かれた農村景観が現在も変わらず残されています。

「本寺地区地域づくり推進協議会」は平成16年に発足し、生産や効率性を重視する農業振興の中、中世より連綿と続く農村景観を良好な形で後世に継承することを使命とし、景観の保全と営農改善の両立を目指した農地整備を選択、曲がりくねった土水路は地域の人たちで支え合いながら浚せつ・草刈りを実施、小区画水田は都市で生活する方々と農村の交流を図りながら、オーナー制度で田植え・稲刈り体験を実施し、中世と変わらない美しい景観を守る活動を続けています。

地域の中核部は、平成18年に景観法及び文化財保護法に基づく国の重要文化的景観に選定されました。

そこに住む人たちの生活の場としての地を、絵図に示された景観と変わらぬ形で保全し続けるべく、農業を守り情報を発信する地域づくりへの取り組み、先人から受け継いできた農村景観と本寺の歴史を次世代に引き継ごうと進められている活動など、その功績は大きいものがあります。



事業委員会委員長 工 藤 武

講座をもって全日程を終えましたが延べ190名と多くの方が受講されました。



第5回閉講式記念講座



現地探訪参加の方々

ふるさと学習院

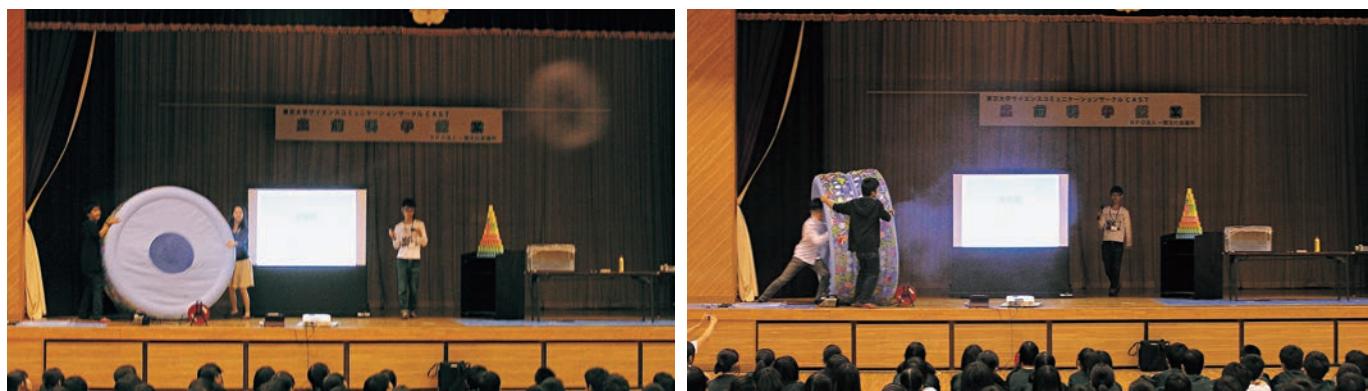
回	開催日	内 容 (テーマ)	講 師	受講者数
1	6月18日	開講式 開講式記念講座「平泉文化と平泉都市圏」	一関市博物館館長 入間田 宣夫 氏	42人
2	7月16日	「中世都市平泉を支えた骨寺村」	一関市文化財調査員 工 藤 武 氏	30人
3	9月1日	「平泉・土地に刻まれた歴史」	平泉文化遺産センター所長 及川 司 氏	29人
4	9月22日	現地探訪「中世平泉に思いをはせ天台仏教の古刹を散策」		48人
5	10月16日	閉校式記念講座「平泉文化の遺産と現状」 閉 校 式	奈良大学教授 坂井 秀弥 氏	41人

「東大生出前科学授業」・「ふるさと子ども探検隊」 大好評のうちに終了！

子ども委員会委員長 伊藤 勝 義

「東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST」のメンバー6人による「東大生出前科学授業」が、9月25日(木)山目中学校3年生169人に、9月26日(金)は桜町中学校全校生徒287人に、身近な物を使っての実験で科学の面白さを生徒たちに披露しました。生徒たちは、実験の都度驚きの喚声が上がりました。

また、今年度の「ふるさと子ども探検隊」は、川崎地域の4・5・6年生36名が参加。内田文化会議所理事長のガイドで金色堂や骨寺村荘園交流館などを巡りふるさとの歴史を再認識しました。参加の子どもたちからは、「いろいろ見ることが出来て楽しかった。」等の感想をいただきました。



東大生出前科学授業



ふるさと子ども探検隊

「一関地方ゆかりの人物事典」 完成間近！

子ども委員会が、2年をかけて取り組んできた「一関地方ゆかりの人物事典」の編集作業が年内完了を目指し、今たけなわで進められています。

一関地方のゆかりの偉人や賢人を、子どもたちに分かりやすく各地域ごとにまとめた事典です。

来春、市内児童・生徒に贈呈する予定としています。

